

もり い もの
森の生き物 ①

だ い し ゅ う ご う
どんぐり大集合!

らくようじゅ もり
落葉樹の森
は 葉っぱが冬に枯れて落ちる

じょうりよくじゅ もり
常緑樹の森
は 一年中緑の葉っぱが見られる

コナラ

クヌギ

は う ら きんいろ こうたく
葉の裏は金色の光沢!!

エコパのビオトープ園には、“ブナ科”(どんぐりの仲間)の木がたくさん見られます。どんぐりは、森の生き物にとって大切な食べ物です。みんなは何種類のどんぐりと出会えるかな?

アラカシ

ウバメガシ

スタジイ

ツブラジイ

森の生き物 ②

オオタカの森

エコパの競技場を建設し始めた頃に、近くの森でオオタカが暮らしていることが分かりました。オオタカは広い面積の森を飛び回って主に小鳥を捕り、静かな森で子育てをしていました。自然豊かな公園をつくる方針であったので、生物研究者の協力を得てオオタカの生活を監視しながら注意深く工事を進めました。その結果、オオタカは今でもエコパの森を飛び回り、毎年子育てを続けています。



フクロウ

オオタカ同様、猛禽類と呼ばれる肉食で大型の野鳥。カラスほどの大きさだが、トトロを連想させるずんぐりした体型、平たい顔に大きな目、夜の林内を静かに飛び回るための翼、「ホーホー」とオカリナのような響きの鳴き声など特徴的。

餌は何？

オオタカは木の上などで待ち伏せして鳥を襲うことが多い。小鳥からキジバトやヒヨドリのサイズが多いが、稀にカラスやカモまで襲う。小動物やヘビを捕ることもある。

子育てでは？

巣は大きな樹の高い所に小枝を集めて作る。子育て中は人が近づくのを嫌って、静かな谷の森が使われる。1年のほぼ半分を子育てに費やしている。



オオタカ

里山に暮らす鳥で精悍な表情が人気で、徳川家康も好きだった。高度成長期に全国で大規模開発によって次々と生息地が失われたため、国の「種の保存法」で希少種に指定され、乱開発にブレーキをかける存在であった。その後、保護対策が成果をあげ生息数が増えたので、平成29年に希少種指定を解除され、国のレッドリストの絶滅危惧種からも外された。

サンコウチョウなどの野鳥

エコパの森のスター的存在は、静岡県の鳥でもあるサンコウチョウです。嘴と同じ明るい水色のアイリングが特徴。オスは体長の3倍もある長い尾羽が目立ちます。ツバメと同じように東南アジアから日本に渡ってくる夏鳥で、日本で子育てをします。名前は天空に輝く3つの光「月・日・星」のことで、さえずりが「つき・ひ・ほし・ホイホイホイ」と聞こえることから名付けられました。サッカーのジュビロ磐田のマスコットになっています。エコパの森の深い谷に響く美しいさえずりを聞きたくなります。



ジュビロ磐田のエンブレムとマスコットの「ジュビロくん」



青いウメノキゴケで飾られた巣

コラム

サンコウチョウはクモが頼りの子育て

サンコウチョウの巣は柔らかな苔などで作られ、細い枝に掛けられている。風に吹き飛ばされはしないかと心配になるが、巣材としてクモの糸がたくさん使われている。また、彼らはツバメのように飛び回りながら餌を捕るので、クモの糸が多いことで、子育てに必要なエサ（ガなどの飛ぶ昆虫）が豊富であることも分かる。



ジョウビタキ



ヤマガラ



モズ



シジュウカラ



ホオジロ

もり い もの
森の生き物 ④
もり けもの
森の獣たち
ほ にゅうるい
(哺乳類)

競技場に行くための新しい道路の
工事後に、たくさんのアナグマやタヌキ
などの動物が交通事故にあいました。
森の中に張り巡らされた獣道と呼ばれる
彼らの生活道路が、人間の事情で切り取られ
たために、道路に出てしまったのです。リスやムササビは早くに山奥に
引越してしまいましたが、アナグマやイノシシ、タヌキは今でも姿を現
します。最近では新たにカモシカまで出没しています。



イノシシ



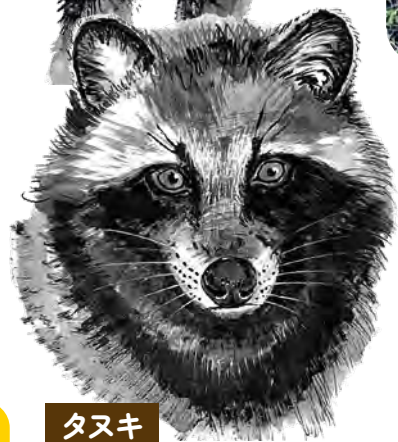
キツネ



カモシカ



アカネズミ



タヌキ

コラム

タヌキのためぐそ

タヌキはイヌ科の動物で、匂いで仲間とコミュニ
ケーションをする。山の中にある大きなウンチの山
は近所のタヌキが共同で使う「ためぐそ」で、匂い
も強烈である。クンクン匂いを嗅いで、家族の健康
や成長などを確かめ合っていると考えられる。お年
頃のオスとメスの出会いもここから始まるのかな？



ノウサギ



アナグマ

大きさはタヌキと同じくらいで
人を襲うことはない。



ムササビ

皮膜を広げて、木か
ら木へ飛び移る。



リス

コラム

森のエビフライ

森の中でエビフライそっくりなものが拾える。5〜10
センチのサイズだけでなく、特大サイズもある。これは
松の木の周りで見つかるリスの食べあとだ。リスは両
手で松ぼっくりを持って、鋭い歯で松の種を食べ、
芯を落としていく。小さいのはアカマツ、大きいのは
テーダマツ。



もり い もの
森の生き物 ⑤
てんぐ でんせつ
天狗の伝説

もり い もの
森の生き物 ⑤

エコパの森がある小笠山には全国でも知られる「天狗囃子」という伝説があります。エコパ自然塾などの機会にこの伝説を伝えています。

「小笠山の天狗伝説」

むかーし、むかし、小笠山を見上げる海辺の村に、小太郎という横笛がたいそう上手な子どもがいました。3年前の大雨で家が鉄砲水（急激な増水）にあい、小太郎だけが生き残ったのです。幼い頃に祭りに好きな父親からもらった横笛を離すことなく、12歳になった今では名人と呼ばれるほどの腕前になっていました。

ある日、小太郎は笛一本を持って険しい山に登り、小笠山の天狗に会いに行きました。深い森の中にある小笠神社の境内に立ち、笛を吹き始めました。「ピ、ピ、ピーヒョロロ。ピーヒョロ、ピーヒョロ、ピーヒョロロ。」しばらくして、社の扉が開き、なかから白い髭をたくわえた恐ろしい顔の犬天狗が現れ、「何しに来た、小僧」と大声を上げにらみつけました。そして、腕を組み「それにしても、見事な笛の音じゃのう」と褒めました。天狗は肝の据わった小太郎をしげしげと見て、弟子入りを認めてくれたのです。その日から厳しい修行を重ね、15歳になった小太郎は、「多門天」という名前をもらい、小笠山の天狗となったのです。

ところで、海岸の村々では海水から塩を作って、遠くまで塩を売りさばき、そのお陰でお祭りの山車を豪華なものにできたのです。製塩のためにはたくさんの薪が必要で、小笠山の木々を乱暴に伐り倒したのです。放置された山はどしゃぶり



の雨水を溜めることができず、その度に泥水が激流となって村を襲います。小太郎は村人を苦しめ、両親を飲み込んだ恐ろしい水害を防ぐために、小笠山の森を守り育てようとしたのです。

いつからか、たくさんの木を伐り出そうとすると、どこからか笛の音が聞こえるようになりました。さらに木を伐ると、どんぐりや松ぼっくりが雨のように飛んでくるのです。こうして、笛を吹く天狗が乱暴な伐採を許さなかったのです。

小笠山の周辺の村々では、今でも「ピ、ピ、ピーヒョロロ・・・」というお祭りのお囃子が、小笠山から風に乗って聞こえてくるそうです。これは「天狗囃子」と呼ばれています。おしまい。

やまだ たつ み さい わ
(山田辰美 再話)

コラム

しお き もり
塩木の森

小笠山南側の海辺の村では江戸時代に製塩が盛んで、海水を煮るために大量の薪（木と呼ばれた）が使われた。小笠山はアカマツやコナラの林が多い明るい山だったが、木を伐り過ぎてはげ山になることで、いく度も洪水などの水害が起こったと考えられる。

コラム

が が
マツ枯れとナラ枯れ

昔はどの家でも生活燃料を里山から得ていたが、お爺さんが山に行かなくなって森の様子は大きく変わった。広い範囲にあった赤松の林が、昭和の後半に「松枯れ」によってほとんど消失した。令和になるとドングリの木が枯れる「ナラ枯れ」が広がった。里山の自然は人の手が入ることで守られる。